

# Un jour

## アンジュール

「アンジュール」は仏語で「ある日」の意味です



自分の仕事と生活を見つめ直して「新しい男性の生き方」を考えてみようー参加条件は、50歳以上の男性であること。今年度で3回目となる青森市男女共同参画プラザ主催講座「男の生き方塾」。公募に応じた企画委員が案を練り、年に4回ほど開催してきました(写真=平成21年11月14日「おしゃれ〜脱“背広”ファッションショー〜」より。青春の1曲をBGMに、自慢のスタイルを披露)。

### 特集

ワーク・ライフ・バランスで  
ハッピーに生きよう!

仕事、仕事で、趣味の時間も友達や家族との時間も取れない、そんな方はいませんか？ 仕事を続けたかったけれど、子育てで退職し、悶々としている方はいませんか？ 介護のために、仕事を辞めざるを得なかった方はいませんか？ 仕事も仕事以外のこともバランスよくできたらと、思ったことはないでしょうか。仕事と生活の調和がとれた人生を送ろうではないかという動きが広まっています。ワーク・ライフ・バランスです。

不況や少子化などにより、「男は仕事、女は家庭」が成立しなくなってきています。この変化に対応するために必要なのが、ワーク・ライフ・バランスの実現です。そして、これは男女共同参画を進めるためにも欠かせません。今号の特集です。

### 「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで  
あなたを大切に思う

性別を超え  
世代を超え  
時代を超え  
人と協調し 人を信頼できる  
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして  
青森はここに「男女共同参画都市」を  
宣言します。

平成8年10月22日 青森市

2010.2.20 No.36

・奥さんに働いてもらいたいのだけれど、小さな子どもがいると、再就職戦線は不利みたい。彼女、あきらめちゃった。(30代・前途が不安な子持ち男)

・続3月8日。イタリアでは女性にミモザの花を贈るのがです。街中がミモザでいっぱいになるなんて！ 行ってみたいなあ。(30代・乙女チック続行中)

・3月3日はひな祭り。3月8日は何の日？ それは「国際女性の日」。この日を国の祝祭日にしている国があるんです。それはカンボジア。12月10日の「国際人権の日」も前王妃の誕生日も祝日。女性と人権尊重を国内外にアピールしているカンボジア、新しい発見です。(50代・アンコールワットに行きたいアラカン女)

### アンジュール的 私の言の葉

・デート中らしき二人。つい耳がダンボ、目がお皿になったのは、女性が支払ったカップルが4組続いたこと。時代は変わったのか、偶然か。(50代・ボクらは割り勘だった)

・知ってしまったことが幸せなのか？ 迷うことがある！ だけど、知ってしまった者が動き出すことから始まるんだ。と信じて、今夜も徹夜の私たち！ (50代・男女共同参画社会の実現を願う母)

・やっぱ君が良い♡あなたがいるから頑張れる♡そんな一人を応援したい！ これからはワーク・ライフ・バランスや男女共同参画が基本だね。(60代・自称幸せ配達人のおじさん)









～「パパ・ママ育休プラス」とは～  
これも1つのワーク・ライフ・バランス  
です！

子どもが原則1歳になるまでしか取れなかった育児休業が、父母がともに取得する場合には、1歳2ヶ月になるまで取得できるようになりました。

これは、父母が同時に育児休業を取る場合のみならず、父母が交代で育児休業を取る場合も含まれます。つまり、父親の育児参加により、従来より育児休業期間を2ヵ月延長可能とすることで、取得率の低い男性の育児休業取得を促そうとするものです。

このように、夫婦で育児休業を取る場合の休業期間の延長をパパ・ママ育休プラスと厚生労働省が名付けました。

なお、父母1人ずつが取得できる休業期間(母親の産後休業期間を含む)の上限は現行どおり1年間が原則です。

さらに、育児休業は「連続した」1回の取得が原則ですが、父親が産後8週間以内に育児休業(パパ休暇)を取得した場合には、再度育児休業を取得できるようになりました(再度の休業期間もあわせて1年を超えない範囲で)。



## ●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力で悩んでいる、自分自身の生き方や家庭のことで相談したいなど、あなたが抱えている悩みを相談員がお聞きします。

毎週月・木(祝日・年末年始・休館日を除く)

○電話相談 ☎017-776-8850

○面接相談 10:00～12:00  
13:00～16:00

\*面接相談は予約が必要です。

平日 9:00～18:00 ☎017-776-8858

## <発行>

青森市市民文化市民協働推進課  
男女共同参画室

〒030-8555 青森市中央 1-22-5  
☎ 017(734)2296 FAX 017(734)5232

## <編集スタッフ>

企画集団プティジュール：白井壽美枝  
小山内世喜子・沼田久美・阿部美智子

転載希望の方はご連絡ください。

アンケート



## 男女共同参画って どう思う？

アンジュールが  
聞いてみました！

(男性14人、女性106人、  
性別回答なし2人)

昨年で男女共同参画社会基本法制定から10年、女性差別撤廃条約採択から30年。青森市でも、男女共同参画都市宣言をしてから14年になろうとしています。これまでの年月を経て、人々の意識はどう変わったのでしょうか。普段から特別な関心を持って男女共同参画推進に取り組んでいるというわけではない市民活動サークルの人たちなどをターゲットに聞いてみました。

Q「男女共同参画」ということばを知っていますか？

→「知っている」が9割



Q「男女共同参画」をどう思いますか？

→「いいと思う」が6割、「わからない・回答なし」が3割

Q「男女共同参画」をすすめるためには何が必要と思いますか？

→「上手な伝え方」「PR」「企業・行政の積極的な取り組み」  
「地道な啓発の継続」「意識改革」など

「いいと思う」人は、「その人が活かせる」「決めつけのない考え方」などを理由に挙げていました。「元気になる」と書いた人もいました。でも、「わからない・回答なし」が3割でした。

「すすめるために何が必要か」の回答には、「わかりやすく伝えること」や「意義や意味についての明確な説明」、「マスコミなどが取り上げる」などが多くありました。

男女共同参画は「少子高齢化や経済状況などからこれからの働き方を考えたとき、絶対に必要」「生き方を見直すキーポイントになる」という回答が多くありました。これらの意見は、今号の特集「ワーク・ライフ・バランス」にもつながるのではないのでしょうか。

一方、「自分の『男だから女だから』からなかなか抜け出せない」という記述もありました。これまでの年月を経て、一定の認知を得ることができた男女共同参画。まだまだ、その考え方を広めていく必要がありそうです。

(アンケート実施団体：企画集団プティジュール)



■長崎で出逢った青森宣言の  
法事で訪れた長崎。35年ぶりに  
らいに永井隆博士の如己(よこ  
堂)に出かけました。診療と研究に  
よる放射線障害と原爆による障害  
のために、幼子を残して43歳で亡  
くなった博士。病魔と闘いながら  
被爆者の救護活動を続けました。  
最期のときを過ごした畳二畳の小  
さな住まい(隣人たちからの贈り  
物)が如己堂です。  
「こよなく晴れた青空を」で始  
まる歌「長崎の鐘」をご存知の方、  
いらつしやいますよね。  
堂の名は、「如己愛人」己の如く  
人を愛せよ、からの命名と。「青森  
の宣言文に通じるよね」。隣にいた  
夫がつぶやきました。とっても、  
ドキツとしました。

アンジュールの  
SHIRAIさん